猿蓑ぞうし　巻之二

冬

初しぐれ猿も小蓑をほしけり也　芭蕉

什葉ヶ祖翁彩風興を最分一巻集中にて撰去り去る
凡非たりしいへども祖翁の指揮ゆ生ずるものにして
翁老耄の余匂ひ二甚角う苔匂深き意味ありて点侘
しものふや抽ずるに江湖集永明頌云孤猿叫落中岩月野
客吟残半夜燈。善會大師語云猿抱子歸青嶂後鳥啣
花落碧巖前雖猿但無心而啼旅客愁人因已心中有
愁聞之則断腸生愁此愁恨全不干啼猿何者猿一向

無心啼故不知愁心也又云啼猿非首恨行客自多愁廣
聞和尚頌云越山入夢幾重々歌處應難忘鷲峰後夜
聽猿啼落月又漆新寺一樓鐘此頌霊隠猿一樓鐘を
悲聽する頌なり猿鐘一對の作猿の老以の二句主意なる
ゆゑ毎〳〵探られ貞享元禄の宵江戸集に採れ採林の詩
なるゆゑ猿を採りて祖翁の俳意を以て新しきの名〳〵まさに
彩風の俳句仏聽を出るを示さなるを尊む事〳〵集
の題号世句を新しきりさきに八十九句八十九句仕ふ〳〵て
猿の巖下ふぼぐこそぎぬれるを見て時雨
の寂〳〵み行の秋とまくさむきを人は心に動かしはかり〳〵けり
とふを又まの現力をまつはの姿をふる趣〳〵

この句は〳〵けり乃五文字小堤の入〳〵る古説を定家卿の
篠ためて寂しきはれ秋の夕ひたひこそ〳〵乃ほ〳〵けり
とふ歌を引て翁を古を取て猿を人古似とふる説
ハ小蓑をかし〳〵けり猿をら声〳〵なりといつりを古説
取らを〳〵評〳〵又小猿を人を似をいつるを祖翁の俳力
成敗を小〳〵さを古説なを〳〵田子趣〳〵再三吟
〳〵て言外の余意時雨乃うつ〳〵初乃字を五字を峰の
角〳〵物を出て弁を毎々俳を趣て風情劣新趣〳〵
初の字い蛙て〳〵升仏陽〳〵〳〵賞歎
世字〳〵意陽趣〳〵なを〳〵〳〵意拍〳〵〳〵
乃吟〳〵〳〵巴峡の啼猿猴〳〵句翁秋を伊勢の山越〳〵乃〳〵付
猿〳〵〳〵〳〵

客ハ思ひ小墓ハ故布ーけくらふの味ひ含て情降りみて
と味ふ趣ーー

あをゝゝゝけと時雨はる松乃濤の夢　甚角

遵生八牋五云水樂洞雨後聽泉豈無耳哉更當不
以耳聽以心聽といつまよほで人乃見ず巣ゝ愁ふるるハ
心ハ以て本ゝす眼耳口鼻ハ多ゝ所以ゝとの完ふして色
蕉門の句を作る乃本ゝ所に句心触の句と不心ず乃
ゝゝふずゝいふ所一乃工夫ゝ家ハ所命降して姑て祖
翁の俳諧を語る趣ーー世句晋子ゝ逸興初冬寒寂乃
風情一ハのうへに述ゝる濤乃彩ふ後ゝ所句初板庇
ずゝるる青日割ずを洩り来る風の燒火ふゝるるまて云
外の除情趣ーーかゝーー実に一時の秀逸ゝ新趣ーー古徒
ふふ墓の白ハ竹葉ハ父ふして世句ゝ毋ゝ次ゝの句ハ
産出すゝあきゝずと心ゝあるる濤の彩ハ姑蘇城外の月やと
ゝ乃ゝ三井の濤ゝハずゝゝゝゝ姑蘇城外の月やゝゝ
姑蘇城外寒ゝ山寺。夜半鐘聲到客船と作ゝ張継ゝ詩
乃句ハ取て徒ゝるゝ言外の餘韻ハ豊ふ像ゝ趣ゝ深く
味ひて探ふ趣ーー予竹の餘情を味ひて後尾久の子輔吏を
訪ゝるゝ行ゝ吏晋子ゝ自画讃の一軸を持て葛のかゝるる柱に
九月ひゝかけてゝれふ焼火を點ーー其上ゝ竹句を書ゝ余
情暗ふかゝるる道ふ志のゝふゝひと蕉翁すゝを求けゝの

おみな姿たりと味ふ句まことに其姿情備りて

時雨ふるや芦ひかぶる敷　千那

鮒ハ俗字也イサゴと訓す唐土ニ鮒といふハ鯫の字也
と心得難し　一説句の鮒ハ江州和爾ニて多く産て京師
ニ賣るを一名サノボリと云湖の産なり去る一寸ばかりの
小魚なり　ハゼに似て漢名ハ詳ならぬもの
なるを句ハ雪ふる佳景ニ鮒ハ冬の時ニ当りたえら
ずして芦ひかぶれたる湖水の風景夕陽ハ山にかたぶきて片時
の間なるを漁舟の場ハ僅ニ遠雨の眺望言
外ニ見ゆ時雨ふるやの二字魂となる句也　今

時雨の降来るを村雲乃ふるみなを思ひつづけら歌南去北来
人自老夕陽長送釣船歸といふ杜牧の詩の趣を通ひ
て夕陽ハ雨にかくれまづ漁人ハ釣舟を費して句を成害
ふるを恐る鮒ハ弁ハ多識編ニ出す

幾人か一しきりをうけぬく芦田乃橋　僧丈艸

世句ひえおろしふ村しぐれの降来るさま風景云に
長橋と云芦田乃橋ふるさまハ句をなかしかけぬ
くしふ所ハ比叡ノ麓葉集ニ幾人か比叡山おろしの
ふきなしてむらをにむふ芦田ノ長橋といふハ俳諧ニ
なるなの名ひえ山おろしハ山みふ持て長橋湖水の眺望

を眼前にありかけぬくら舞とひぐらしなきて

滝打乃枝振ふるふ　　膳所　正秀

枝振ふるふ和歌の字魂之鎗打乃滝振ふるとさく
魂ハなるる趣〜よろし　味ふて新る所〜鎗の奴ぶむ
〜ふるまの心ふ所よい所〜〜ぶ沢ひ立ふる三の推まで虎
ひつ〜ぶべん〜色の勝ハて銅造乃大小に大当毛れ
伊達ふ〜ふ〜ふ〜

たりこれをくちぬるもちぶこゝろゆかぶば船水の風景
船中の情面をしく打興ずるしらふ白こと吐ふ毎
ぬるをて奉しう恨こちりと翁を付ハ俳情あ

伊賀の境を入る

なつかしう史ふる此傳の一附面　曾良

伊賀の境を入てなを付ハ一句羽着やあ加子書る
ちり古注ふなつかしきあ昔乃京と付詞をしれと
いつく付句ハ付面の俗しきよりを奈良の昔ゆ京ゆ雲
忍ぶる風情ちり時ちの俗の
の五文字あて白ゆちりしらるをしたふ加子の都を

思ひなつかしきをて付ふ付面ふ俗ゆ付ハいり付
う情四乃思ひまをふ加をふさハちて伊賀の境
をまりて付面ふ思ふ心ハまぶしもちるの傳心
思ハ打者を忍ぶ情乃やるもちるをいふ言之

時雨るや思ふつむ花の窓ひろ　化北

付句つをまる思ふ俗ふ付句の如ア花を閑窓の
内ちを添ゆ俗る作之思ふ毎ひぶき光雲の時句
ゆをと為の字成合をるとをる為をふ付句ゆ
俗をを毎眼ふちる為をしを思ふ付句ゆ
窓ゆをいふふ姿情を備をる

るかりて井田の里や行時雨　大津　乙州

井田の里ゝ山城の名所なりるかりてのてゝ井字濁りてよ
ゝ山城ゝ清濁ゝて白ゝ意ゝ遠ゝ意ゝよゝ白意城味ひゝの
清濁ハ定ゝ濁ゝ濁矣ゝゝゝ清濁ゝゝかゝゝ白ゝ
ゝバでゝよゝゝん共からでゝゝす多ゝゝかりてゝはりてハ清ゝ
ゝるゝゝゝゝゝ説ゝれどからでゝハゝゝゝゝぶりて心ゝゝゝず白
意ハ馬ゝかりゝばゝたゝゝるゝゝゝゝゝや日ゝたゝゝゝゝゝゝゝ意ゝて
乙州ゝ井田の里ゝ引ゝて時雨ゝゝゝゝゝゝゝ

の子孫なる新羅三郎義光が牛馬を牧ひ養ふ故に牛馬を牧ひ養ふ故に牛田と名付けしと一説にいふ牛田の里と云ふ所穂積の郡に牛田と云ふ所ありしかるに牛田の名おのづから撰ばれるゆゑなれど自然の所ありてかくなづけあり

牛田の里の木曽の里ふるれば白川北関の嶋れ松島うゑれ浮ふれ吉野なくれば桜ちるの白川の関を越えいかにうたつらんとよみ侍りしかれば詮なしとされば名所の名たるゆゑなれば名所の名はいかにもかくもなれば名所の名はいかにもかくもなれば名所の名はいかにもかくも

姉さまあ外国乃外の字ハ俗言みゝ探り求るハ人々
の心ゝあゝ面ゝ　ゝ句艶蕉門ゝ係る句みて其角
乃姉を尋るゝ句さゝ句ハ除人みるゝ句艶乃て表
裏を以て句言を二段ゝ味ゝ分れハ表深言を百姿ゝ
又言ゝ乃て蕉ゝ百ゝ分ゝ言ゝ百ゝ同じての字ゝ乃れた情
て傳ハりゝ句の闇ゝ百ゝ赤ゝ句ゝ乃て家ゝ
ゝ義着ゝ後完の説を俟て断ゝ

たまゝ　ゝ　是乃光りや出ゝ　羽紅

て賢ハ深ゝ是の句ゝ定ゝ乃ゝ句ゝ
ゝ択ゝ　ゝ句ゝ上の字ゝ乃て句ゝ

新田ゝ得穀壇ゝ　ゝ　昌房

きゝ乃通りゝて田ゝ村ゝ雨宿ゝ物売ゝ
ゝ手柄ゝ　得ゝ乃て句ゝ
に極出ゝ乃ゝ句ゝ

いてかゝ　ゝ　仲の時雨乃生ゝ帆行帆　去来

上の字ゝ句ゝ仲乃時雨の字ゝ
望眼前ゝ乃ゝ　ゝ去年云猿ゝ彩雲の姿時
雨ゝ世集の美句ゝ句仕換　待ゝ
や行帆ゝ句ゝ心の移ゝ

所云はの時可しらふも又一手一つのるゝ〜さきて向ハ遠
ふれやうて待る之去来抄

初霜ふ行やわ斗星乃ゆく　伊賀　百歳

霜の新きを紀わ斗のさゝ〜ゝ先り渡るを毎ゆ尺〜
作をあ白ふ〜て北斗ハ人君ふたゝふ白意ハ君ふ勤仕
をるに扶のつゝ吹やらあふ霜を踏て君前一仕候する
姿形容〜〜ゝと吹ゝ〜星の前といふ霜ふ姿情ハ行る
紀之東方未明顛倒衣裳顛之倒之自公召之と云
詩経の意ふ通ひたりて出仕する人の姿情言ふ尺〜
わゝゝて思ひやらゝの白之と吉〜

霜と色も動くゝの古ゝ霜歌書　野水

公白霜歌乃実情影る霜ゝる白潤之風ゝ霜ハ霜
霜ゆ星るなし〜霜ゆ星渡る扶ハ極て低く静なる
ものなるハそこゆ賞意ふ霜ゆ侍に白作れる之霜の古ゝと
置渡すふ有ゆ月ゆさ〜〜〜ゝゝ寒夜乃景色云
ふふ探りて味ふ興〜

淀乃月

初霜ふ何と扶ゝ扶ゝ扶ゝ子乃中　其角

神狂云ゝ古ゝ特の影ふ斗の中に八何とゆるゝ

笠に雪踏のうぢ橋こいふを取て淀川舟に乗れば
乃寒さ我れ打ひゑぐ〻ぶる西行の作也

瓦屋切れ　同

白の表ハ蕉切也白ちりめん瓦屋の切れとの
かけ合せ小六月の天気をうけて蕉切も又百生んやと
いつるちり表の底をハ普子り自得の白ホーてさぶハも
くや瓦屋の涙時さくなきよ樹本ホハ今瓦屋の涙るハ樹
本ふさたれる有る才のうくやと就恋ーてそれよもさく
るあるべハむーゆいつてのるる名利を思ひ切と深きを
合るるもつ海の妙術と知る命ーこうんとハ不如といふ義
ゝ同ーふ及といみよ風をこ切レハ名利を断絶する立
蕉〻寧とかけ合るよふとこと味ふ命ーー寧ハ願の詞
ホーて壁ハ〻物二ツ有る時ハ切れるハ此るとをいふ意也作
りと祖翁の俳をホーて普るホ多き白壁也

浮寺の松や秋江月　元兆

秋江月の浮寺と思ひ合せて秋江月ハ歌浮寺ハ序也松の
葉葉ハ曲の場ホーて山寺寂莫乃風情乗移の景色
多く本立の中ホ山門堂塔のさま眼前乃るる如ーー清水ホ
葉葉ハいふも更ちり赤松葉の葉葉なる事て浮院カ
場ホ松樹のるく従身く多ホ有さま他ーー切く命うんハ常

盤木乃葉を赤ハ算なを赤ハ松乃葉を赤を節かうべちぐ
いふ〻〻ハ蘇以て志と害さるゝ為〻序歟
曲水ハ白毎年備らざれハ断腸やだと心乃原し

百舌鳥のゐ教那ゑ中ゑ抗よ十月　嵐蘭

世白向上の境にして祖翁形骨乃壕心付句ゝ其
室ゑ入ゝいふ為〻芝を機嫌の句とゆふ初心ゑ巣ハ
いづゑのおゝ神ゑ毎ゑ為るゝ疑ゑ為〻ゝ云ゑ乃尼
京伝尋て新る為〻私も乃十月の乃乃枯ゝゆゝ
為る廣抗の毎何と乃ゝても懐日と偽すゝ為る
ゑ枯木のゝ為ぜ子賜乃已ゞゝ為ゝ為ハ実ゑ

類聲人の勝伝歯異る為ゝさらんや支本集夜
笠右大臣賜の花る為ゝ抗ゑ萩も志りのれて為ゝゑ乃に紅
ちゝゑ毎ゝ抗乃毎ゑ異ゑ為ゝ云抗と為て
明彦ハ言外ゑ為る為〻

こがらしゝ頬腫ゑ人乃顔　芭蕉

風の吹ちる子歯の〻ゝ伝ゑ為る人乃抑抓服ゑ
為ゝ人ゝゑ志つぶる白葉ゑ本枯の理伝新ゝ為る
風乃勇と矣ハゞ公ゑ〻ゝ頬腫ゑやゝる人の顔と王
照君ゝ胡更舘ゝ馬上の涙と いつゑまさらん上陽人ゝ
云ゝ為ゝ為ゝ為る毎も抗ゝ異ゑ合ゑ為ゝ為ゝ為の上ゝ

男女美醜痩肥ハ生ル自然ニ美婦人の容色ハ
皆人の新ニ云不魂ハ生ル角〳〵

砂よけや延命のうゑ木哉　九兆

海濱ハ砂高ク風ハ砂よけとなるものとなりけれ
砂とまん〳〵かけ〳〵家居ハ風のいと角
〳〵ニ垂るゝまゝ立木杯ハ立かけて垂セ〳〵さ生ハ白ハ蔭ヲ
家の傍ニ砂よけとなりけれ垂木立のまゝ大木ハ蔭
茂て百〳〵ハ発木の青〳〵ハ発ハ木の青〳〵ハ発ハ
〳〵ハ立て蔭ヲ住居の名ハ枯の景色言分ハ見るゝ
蔭の〳〵ハ余情ハ

梅花のかさなり　外ハ枯那哉　賀　士芳

なゝ色

かさなり梅ハ花ハ梅ハ花ハ梅ハ花ハ

て無行を白状へる仕ふしてなるべて通るの不魂ちり條
ちゝハ宗柿の法ゆ字ふ人心のよ[illegible]ゆ出会せ宗ゆ[illegible]
佛心を[illegible]ゆ邪見殘忍乃徒ちりて天地自
然の道理を無べらうしと日く故ゆ罪業ゆすゆ
その佛心ゆるとのよりゆ[illegible]ゆ柿ゆ[illegible]ゆ
柿ゆたのめ人惑て美しく色ゆちゆ[illegible]ゆ
うゆ[illegible]ゆ殘りて熟ゆる[illegible]ゆ性の宗より人ゆ疎ゆ
いふゆ含ゆる白ゆ又宗柿の人惑ゆ[illegible]ゆ女人ゆ[illegible]
ゆ[illegible]又親鸞上人の[illegible]ゆ柿嶋ゆ[illegible]ゆ行者ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ上人の哥ゆ柿嶋ゆ[illegible]ゆ
の心熟柿ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

茶のゆやゆ[illegible]人ゆ[illegible]

美聖女　越人

美聖女ハ靈照女の誤字ゆ[illegible]ゆ女禅ゆ学ゆて志ゆ[illegible]ゆ醜婦ゆ
ゆ[illegible]ハ[illegible]ゆて娶ゆ人ゆ[illegible]ゆ茶の[illegible]ゆ人の愛で
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

の臧坐(ザ)とり中けるを聟として合壱して入臧を居士坊入てこれを見て笑て曰ふ女かしこい孔くしてて七日を過て化きこいて又天中記に茶八種をまきて生る時外へ移し植れハさきをもち結こいてよつて婦の婚姻の時の聘物となす婦嫁して再嫁をもぐらふざるふことをアとこ行くを見て夫恋女と茶の花の樹合せるをつ海を日本山を東北國をハ茶を以て婚姻のとしてなるかゆゑ行

蓑虫の茶乃花を折て

伊賀　猿雖

茶の花ふ蓑虫とハよくる異に芳くる匂ふして蓑虫の俳

きくを茶の花ふ俳きを引(キ)て茶を好む俳人ふ引みて
を生ゞ為ふ茶の花の下ふ生たるを八ふて其俳人ぐを
の俳花ふ折しを俳くる蓑ふ共に折ををりとハ
作れる花ふ花ふ為ふ俗くも作ふ蓑ふ花ふ折て蓑
虫ハ多掛る蓑虫ハ茶花ふ折をるを
なり折をるハをひぐふ茶ふ蓑ふ折をる
をりるぞや折れをりをひぐを

古寺の簀子も春ハ来ぬ

凡兆

古寺の簀子を掃こ梅向こ形らこを簀子掃ハ実
を古るの凡生ー花ふ係こふ興ー春ー好文字

みて白波なすくみ接の用と詠ずるに

公和の泛土田を閑居とゆゑて

雅水のなることろなるハ　みな　竜　甚角

泛田を閑居とゆゑ詠ずるなるして泛田本福寺
子那ゞりとなる趣ハ雅水の名所ハ例の普子ゝ西蔵
にして尋ぬるの人乃云生を尋ぬるなる行ゑ蓋翁の名
詩しるふ不ちゝいるものと賞して閑居をな
ぐさめるふらん泛田の菜桔の風景ハいふもさらなる
雅水乃ゝ名ゝ所ゝ詠ずるを泛田ゝ詠ずるハ
ふ雅水乃名ゝ不ちゝ白波れるゑ雅水乃名ゝ不ちゝある

なるゝ名ゝ雅せらるゝなるんとひぐゝ多ゝ名ゝ西蔵のた
うゝ俳ゑゝ今ゝる趣ハ代白祖翁の泛田閑居ゝ雅
乃子甚意ゝ影の玉部乃ゝ詠ゝるゝ思ひ合せて
幻住庵みての作ゝゝ詠ゝれハ元集ゝハ幻住庵みて
端書ゝ食数の雅炊ゝ文字ゝ詠ゝずるへ
ゝゝ非ゝ祖翁の時代ゝハ茅葉の例ゝ引て假字(カリシ)
ゝのゝゝ牡丹乃ゝ

牡丹の作ゝ影の無魂ゝ時ゝ翁ハ
牡丹ゝ蕊ゝ蕊かゝ至かぬるゝ
おゝなるに牡の物ゝ寒さゝ

車来　伊賀　祖翁

まつ猩の所酒屋の手つゞく

草津

勝日もとゆりくもういのこゝろ　尚白

十月のつごりゝ子津を焼て勝を喰ふて変るを祝
しるゝ之世日もるゝ所うて焼とかゝるゝ夕方のさ
間ゝ命ゝ焼ハ女の年たけゝる稼中てゝ所と焼乃
字魂乞又勝日の字動ゝ焼ゝ変るとして玄猪の餅動
ゝ変ゝ

神迎　水口　ゝゝ

ゝる乃　冷　珍碩

十月朔日諸神出雲ゝ社はゝるゝ神ゝ送ゝる心と神
送ゝとゝふ十月世日ゝ伊ゝ勢ゝ迎ゝる心を神迎ゝとゝふ
今案ゝ東の俗ゝ九月世日ゝ荒神の祭ゝ主ゝ神ゝとゝて送ゝ
神送ゝとゝふ之住吉の神送ゝと同日ゝ詳ゝるゝハ増山井ゝ
出ゝ雲ハ家ゝ勝ゝ向ゝ者ハ江南の琢磨ゝ迎歌祭亭の即事
ゝハ多ゝ年ゝ十月世日ゝ神迎ゝとゝふ日ゝ歌の句
やゝ神ゝ迎ゝ月ゝ雲ゝ風ゝ書ゝ雲ゝ歌ゝ
かゝ勝ゝ煙ゝ乃ゝ中ゝ早行の旅人駒乃
海ゝ者ゝ雲ゝ助ゝ言ゝ彦ゝ乃ゝ者ゝ特ゝ唄の旅情言外ゝ見ゝ
乃ゝ口ゝ中ゝ乃ゝ之ゝ所ゝ魂ゝ乞ゝ乃ゝ之ゝ字ゝ乃ゝ
ゝ子行の旅者ゝ乃向ゝハ味ゝ趣ゝ　水口ゝ

奇絶の駅ホやどりたまへば雪ふりたれば名のみ山ちらぬ花ふりて西行の手ゐる行のまつむしの引かけて皆ふ一世なる面白し　謡曲（エキロク）行音（イン）夜過山（クヤ）とは杜荀鶴の

月の伴を過て　ほちゆ山を語りなる或ハ石部を語りなる

こゝなどいつる人々行をとゝまるの場の宜を定む面白し

手ハ一句の意をよく協るゆゑなり

元月朝旦

雑煮　赤柏　伊賀　良品

元月元旦元日元朝元正元日元朝元旦元日元朝元旦元日元朝元旦

星霜を数へて作りなる句意あれば新しく奇なり

あら玉月の水を移すやあれ仙化　羽州坂田　不玉

句にしるしの虚をつきたるもの祖翁の手法にて
幻術の事にて玄元移すやうに視くなる事
句意は諸くの名なき枯れたるを乙まるの仙花の青
しと事和歌の中に繋くなぬきんて送る八幡の名や
と異なれ共水仙は定て夏の炎暑の冷泉を移して
送るなるべき気なるを句意水仙の水を移すを狼的やうに
作なる人くの如の名充なるを異やうに虚を多つ海
云ふなる句法にして初心の出来ぬ所之又初しなるを

も亦かるこの新趣一句種々やはれしてやとひぐらし一流よ
主用中水仙乃根ばるよりて植れなぐらるを理
なりて更に句の意にかゝぬるを取ればこの句法
実に居て虚に働くの所よく味考の句

今は世ばる為のむりしてやあるの蜂　尾張　旦藁

俳諧ばるは已に針ばるのうるを遠ふて為てなく
夫乃事ばる秋の末に外の虫もあげれやうもなれば針ば
向て不言かに為ひ多りされば人を余の虫ばるは悪むもの
なるを事和歌日向の戸張なる俗のばるを板をさぐみ者
なれ事なれ今は世の人乃日向の人ばれを為のむけしなる

[illegible]ハ[illegible]記者[illegible]て抜ノ[illegible]きやの文字をもて句ゆ[illegible]
叶やの字をもて婚と詠めて居るを[illegible]作りなめなるたのむ[illegible]
てみその婚ゆ動うゆ[illegible]句言葉きのて[illegible]人を富貴ちれハ
富貴をたのみて人ゆ[illegible]芥のて[illegible]ちれハ若け[illegible]
をもの[illegible]て無[illegible]ハ[illegible]る更に世の中ノ人ゆ人を異さりゆ
いつ[illegible]部の[illegible]れといゆ[illegible]歌ハ始さて天世の人をむつ[illegible]
[illegible]むの心有[illegible]なり[illegible]ハ[illegible]句[illegible]ハ[illegible]人[illegible]ハ富
[illegible]ノ人ゆいま[illegible]教ゆ角さ一ハ[illegible]ハ俗世ゆ[illegible]
[illegible]ハ佛ゆ禮を[illegible]て心を有[illegible]ハ[illegible]ハ往生ハ[illegible]
今世をたのむ[illegible]人ゆ礼ゆて交ら[illegible]ハ[illegible]られハいづ
[illegible]の世も仁義礼智信の[illegible]ゆ捨て[illegible]

[illegible]教諭[illegible]の句深く味ふ[illegible]

尾頭乃こゝろ有[illegible]海鼠哉　去来

[illegible]国海鼠の形容眼耳[illegible]体の[illegible]ハ[illegible]ハ形容の句皆去
[illegible]ゆ糟粕を[illegible]紙筆ゆ[illegible]
再三吟誦して[illegible]の形容実に海鼠乃[illegible]句ハ[illegible]
心[illegible]なきと心ゆ[illegible]ハ[illegible]
なぐいふと同じ[illegible]句を蛞蝓にうごくされて[illegible]
字眼ゆして一句[illegible]ハ去来ゆ俳腸ゆ探り出
ぬ[illegible]況[illegible]の俳[illegible]ゆ[illegible]ハ尾ゆ[illegible]
尾[illegible]ハ[illegible]ちんどハ大言ゆ[illegible]

一 抜しさむき深やの手茶　伊賀　探丸

[illegible]

近江多賀明神の[illegible]の高嶽の通り端に大なる石の[illegible]
立り[illegible]中眼前[illegible]

[illegible]　尚白

[illegible]

[illegible]

茶の湯とそつめよ日の稽古哉　江戸　亀翁

[illegible]

序文に[illegible]古今に[illegible]一抜の風[illegible]
[illegible]の[illegible]を示す[illegible]試に一三句を挙

ふるしいつゝ[illegible]ふるのたち　宗鑑

[illegible]

山の端に月[illegible]

うしろ姿ひとすぢ道の柳哉　貞徳

蓮の葉や世を夏寺のかくれ笠　〃

まいまいつぶやさくさくとさくさくと　〃

かくれがのあくハ蓼うくふ虫　山氏　宗因

かるがるしいかまてを品もとねぎの花ぢぐ　〃

小ぢかなれと膳をゆるすの大寺丸　〃

先ホの類かして祖翁改風無門の後ハさいふ此風調を用ひなびたれど其翁初しく此風調成作れり然て祖翁の主ぶりて宗匠ぶ本の調ひて次し毒へる不ハ蕉風の体ひて和心のはがるゝ場ゑ古風ハ品縁語とりて俳言のうゑ引て滑稽ひて俳体ひ一蕉風ハ俳言洒落

滑稽を備ふ故以て本とせり梅亀公翁ひ向ハ蕉の沖とそと云ふそのまゝ本ぶよく味ひ翁ゑてのまゝ本ハ物ふ沖ひよ

おかく用ひゑ見ての下へハの字と係ひ月ふ見ひて彼と先と沖ゑつ乃ふ用ひゑ見ひ蕉じゃの沖じゃのと云て

とい沖ふ蕉ふ面ひふ新ひ向ひ蕉ひ沖ひ蕉ひ沖ひ蕉ひ沖

人間一生の勤労ハ見てよりあるものハ士農工商よりの
勤務ばかりて労をとれハ衣食住ハ安きことのみして
ひろくたとへる句之是ハ蕉門の句ゆえて成知る

蛍籠ハ手負の猪よ　信之

元北

句意すぐれて句勢すぐれ人の思ひ寄らぬ所ハ成業
出して是ハ蛍籠の窟穴に手負の大猪蛍入て倒
死するとハ実ハ蛍籠ハ猪を捕て蛍焼山中のさま
思ひやる蛍の亀鶴ら句調越人ら夢の如不思議の仙化
此ら句ハ一列のうちハ風調作例區々なれ一風ならば
して変化をされと是ハ変化の変化ハ俳令

先師の風ふうて一風ふちづくて変化成ちるさまの
てんぽの心ハ意ちうと去年ちいつる成よりし思ひ趣

住つゝあ旅のこゝろや　星火燈　芭蕉

蕉門和尚の旅の世ハ旅旅ハ枕草の中ハ変化
成る所をよくよくの所と思ひ合せて作りた句ハ
いつも星火燈の実情ハ旅の心を引みて魂を入て夫
本来ハ正二位季経卿ハ如のうかれてたのゝ旅やらすみ
ばちうちさまのまてたりる光ハのうちハ入も思ハれて句意
実意ハ不易の句意ちうと味ハ趣　初学のまて
句情を探り求て俳ハ句上の場ハ作る句

振こころやこころの蒲京のすゝめ　門　其角

世間を寶情にして振こころやの女みやを深く情を能て
魂をいふ事なるべしこゝろの境に美情の備りなん

門前の小家もたのもし　冬至哉　凡兆

凡兆は鹿を紫ゝ[illegible]れは冬至に成殊に移ふる雨一向は
樵蹊にして却て成に以て解す冬ゝ門前とは小而魂にして
美情備ふ小家もたのもしとは冬至の日に門前は他に
して小家は自ら[illegible]れは凡兆富居の地寺院門前なる
雨一樵中小家もおこがましくいふべきなるべし

木兎やおもひ切ゝ[illegible]ゝ　宣乃面　尾張　芥境

おもひ切ゝは物我自他の分別なき意心木兎は陰鳥殘忍の性
なりして夜は小鳥に林中を近く飛て取喰ふ是は終日眼
のうゝくして小鳥ふも侮らるゝ[illegible]は自他を異に切て大悟部
念の得所にいふ為ゝ面つゝと作意なるべし食をて
はよりなり架ふまりたる掛絵眼前尺るべし

ゝつゝは脈る一点に成　けり　伊賀　半殘

發句は つゝ 法意にして作すゝと祖翁の去来ゝ[illegible]れ
る点の作例にして此句は脈る点に諸句を脈る点に取食ふ人は彼

ゑ屋の鈍き波窺てまして所〻いふを見て眠るといふ字魂
ずして本色波動ゑ沈さ〻きるといふ不彼ゑ情ゑ引
こて〻ゑ釈の利鈍お遠ゑゑと詰て聖教ゑ抜ゑる波射ば
と戒ゑこと生ゑる表ハ猛〻して〻ゑ〻〻と眠ゑる波
天理要性のなすゑ所ゑして〻ゑ眠ゑる所を人ふされゑ〻ゑ
ゑ由ゑ大敵の譬ゑて〻ゑる所〻

交貧交

まゝ〻ゑ紙ゑの切を譲り〻ゑ　文仲

黄金用ひ尽して交り〻ゑ〻ハ世俗軽薄の人情
を歎息の句こゑハ貧〻して交り益厚ゑハ情貧波乎む

風交みして貧〻ゑ〻ゑ應〻して文ゑふ空波補ひたすゑの情
ゑ〻ゑ〻ゑ寄ゑ情波紙ゑふ〻ゑて述ゑる句と言浮所〻累して
切を譲り〻ゑ〻ゑふゑゑ〻ゑ句ゑハ貧〻ゑ〻ゑ交の深ハ
莫逆の親友にして彼ゑの彼切波譲り賜ゑ〻ゑハ貧
ゑ〻ゑ〻ゑふ言ゑ〻ゑ貴者の驕ゑ〻ゑふ布ゑの切ゑ〻ゑ
ゑ多物ゑ風俗ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑの切ゑ〻ゑふ所情ハ隆ゑ〻ゑ〻ゑ
ゑ〻ゑ〻ゑ紙ゑの切ゑ〻ゑふ所ゑ業ゑして言外の所情ゑ味ゑ

風や巴をゑゑ　曾良

巴ゑハゑの渦に巻波ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻
如ゑゑ飛ゑ〻ゑ波風の〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

肖門口の入江のあるを見て　丈艸

肖門口の入江なる住吉いづも西宮漁村の家ゐ入江なる新宮門口を出てゆくの浦ハ[illegible]浦てゝ[illegible]の林〳〵言ふ子[illegible]れ〳〵りの[illegible]ハ海より入江へ和り来る〳〵[illegible]り[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]

いつくしうてをゆかしうて　千那

[illegible]

夫因の堅や浦よりおれて　凡兆

[illegible]

ふいくよ梅ごろの頃ちといふ歌の体もかるべく又歌ぬて
ハたの名所の景物ぬ行ちされハ作ぜばといふめるべ俳句ちれふ所ハ
ばいうぬるその景物ちちうる城掃りてその場所ふ動あやうに
作ぬ云ちれハふぬちまちちやる見景物ふて名所城つなぎてハふ
姿も情も作りかぐちて四ちうと定ぬ一まうと古句の粕ふるの
ちう又名所神祇釈の類やちりても又下一切字を用ひ二段ふ切るち
俳祖翁ちう云伝へるやうる異ふ人ちりてやくもちるハ二段ふ切る
未熟の俳士ハ祖翁の意味城意厚さるかのるも又名所のや切ぬ
といぐ夢沢や矢田の里やちぐ切字ちりといふ句ちれ二段ふ切ちう三
段ふ切ちう切字ちりとのふ未練の俳士ふ学ぶ城ぬさちう一初
学のうち惜ふ切字一ヶ所入て作ち句一名所のやちぐといふ伝

ハふ句ちりー切字ちいくつもちりとおくもちりと云ちう熟練の境
ぬしてその境ふいくる時偷ちち句一

代士の見うへる俳句や警乃中　木節

世間ハ代業る人の心ちく孔ちるの居る所城掃さー通ちる事伝見
加ちたちハ警つぐ人の心つまりさ代ふ驚きふれたれた又城
旋ちもふ集ちくちちる見ちる伝といふ姿情を備ちて中ちい事
ハちちる城動ちぐ景色言ふ尽くちう

水底城見て年ちち影の小鴨ちれ　丈艸

世間の浮沈ちるち毎又ふ流ちかしちこちれ上ち浮ひて

新しく出て雲なほ自得の風情龍宮城とも
見て来つゝん新つゝも水面服茶の系毛暗の浮沈を
る拾ひて来し息いかに所まつ海の拾ひ出て芋白

蒸たる　採入て　みるう　余吾乃海　路通

去年拾ふ野明同句の志ほり細くとハいるる物ゆゑ去年ゆゑ
八撲(スヒ)ある白みたるべ細くふたよりるき句にあるべ志ほ見ハ白の路
ゆゑ細くハ句ゑゆゑ見も余語句を上て奥ハて此路通句成
上て先師此句細くたゝく俳しといつきれハ白ゑの所ゝ
味ゆ面〳〵湖水の水面風波をおく出周るにゑるの藻出
新てゆゑ拾ふべやゝみ〳〵も脇るゝ如くゆゑ面るゝ句作れるゝ

るゝ〳〵て海〳〵ゑてゑみるの句ゑ行る舞〳〵寿めるゝ句所句
の縄ゆて寿ゆてゑるゝくゝひゞくゝ余吾の海ハ近江伊吾郡
湖水の居ゞゝゆて一里ゆゝゆゝ〳〵入る山のゆゝゆゝ
ゑ所成いゆゝゝゆ水上のゝゞゆゝゑる所行ゆゝ

死るゆゝも　採味ゝ　雁鴨のう布　日藁

鴨ハ法るのゝ採ゆるゑ採ゆるゑ〳〵て法ゆ鴨ハ死ゆゝも猟ハつゆべ
ゝゆ夫ゆゑたゝゝゝゝ已ゝ羽毛を拾〳〵て人のゝゝゆゑゑ
動べ句ゝゝ架(ホコ)て居る鴨ゆ面縄ゆ足て死ゆゝゝゝゝゝ採
ハ来ゝ拾ゆ〳〵鴨の一句成作ゝゝて俳ゝ動べ死ゝ
ゝふゆゑゑゆゝ縄ゆる句〳〵

月明記得相尋處城鶯東風十五橋上張喬句も思合せらる

禊巻子首引入れ文の月　杉風

[illegible]

この水戸や潮のさゝれて文の月　其角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆ人をのくとゆ（下略）器物のさまを異に合せて夕の夕の
凄きまなて格子力行りと味ひ申し

かりたりより蘭　幸たるまや　夕の旅　長崎　暮年

世句ふ自他の差別行り他ふ見る時ハ夕の旅ふ林
きゆふ方の宮ゝ形ゝから風馬に小蘭を乗て人なきを
引戻るよ家てる実ふ夕の夕暮ゝ言ふれ行庵
自ふゝ付ハ已ゝから蘭を乗て言ふ以ゝ
ゝ旅の異ゝ言ふ出る海ゝ旅人を送り南ケ
る馬の吻ゝ来るを見るふ已ハ字ゞ指て皆ゝ心ふゝ
道といゝ事稽の旅庵ゝ作りゝて除ゝ申されり

見やるさゝ旅人さむ　石部山　大津尾　智月

智月尼ハ乙州ゝ母ゝ句素ハ前句の旅と同ゝ石部山ゝ
を宮ゝ見ハゝの懸ふての句ゝ石部山ゝ白ゝ元
常ゝて事稽の景色体ゝ実地ふ行ゝて深ゝ味ふ
旅人の宮ゝるゝ宮ゝ人ハ宮ゝ見ゝ又石部山
ゝ来ゝるふ夕の抑抑他ふの地名ゝハ夕ゝて安倍行ゝと
常山ゝ　元祖翁伊賀の幻術ゝ

翁い師の嫌るき食ゝ物ゝ食ゝ記あり異ゝ

菊生ゝてゝ　ゝ　ゝ　

世今衣八祖翁奥羽ノ旅の苦さる人の送りし反古を金の袋
探ル見ルまゝ〳〵不の紙衾ハ〳〵ふ色ハ〳〵ふ色を詠めるる
句共ハ〳〵ば翁の色遊の才ふ深くて凡情の〳〵ふ者ハ
たまのゝ毒ひ破ぶきる紙衾ハ狐腋の白衣〳〵ふ狐
まされ〳〵世ア〳〵ふ枕ひ〳〵ふいく〳〵や翁の風雅ふあやかりて今
衾をかぶりて秋を我詠めよ〳〵句をゝやゝ〳〵いふ言を
首先〳〵ふつ言ふ〳〵やゝ知る者作り〳〵る之翁の風雅ふ
深やかり〳〵ふ首先〳〵て世写の俳士と交ハ〳〵んとふ
を俗言ふ含める句〳〵ふ句〳〵

紙衾記

芭蕉

古き枕塊〳〵ふ〳〵南八貴妃ノ形見〳〵ふ侍〳〵て立〳〵
いく重備〳〵る錦床の志〳〵絲の上ふハ鶴書ハ
物ふ〳〵ふ物〳〵ふ翅〳〵ふ侍の世を世〳〵つ紙ハ其唐ま
迄〳〵ふ句ひ強〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ

再撰ニ付芭角一
ものハ俳名
ものなり

心のことばをはきそうそう貧乏の情を物語るなり
きとゝ家はきゝふるめるうちうれぬ
按ふに紙衾ハ宇上川のほとり大石田の俳士芭角一翁の家上ノ
賦なるものなり角一大石田の俳仙ハ芭角門の第一の風流なり
しつくりさきハ芭角一聲の風骨なり男子角一細道ニ云
宇上川のほとりに大石田と云ふ日和を待家ふる古き俳仙の庵
こゝにきて名ものむすびはちゝ芭角一聲の心をやはらけ山
をよさびうたして新古物語みちふかいとゝみちさく
ちゝくしきれハとワちさき一まき乾ぬこゝろの風流家ふるれ
りとゝ云

題二分ニ之今衾一

題分之今衾

曽良

元禄二年ゝ月初の時翁ふ従て新水の旁城たちけるを
見て分句ひるふハ細ふくれハ異ちれハ今衾ハ翁ふ
取かぶりたれど多の旅乃身ふるのハ系ふ新ふる仕へくゝ
ひちげもし夏ゝもして旁をたちけまひふせゝるれハ
翁の多流のつきゝふハけるれるつふ言分ふるつゝ
の情ひやりみて吟也

魚のうけ鶏のやるせなふ乳

探丸

ふのゝり魚の新と行の禾(コメ)猶ふ鶏のゝまり夏て眼を

所なるまゝ故白作り服部のまゝてやるやうなるとつふ所謂と
云ふ事

ちつ川うさと数珠も思ふ網代哉　文仲

数珠も思ふ代といふふて先翁と八雲へ舟攻焼て網代哉
其ゝ氷魚をゝゝる所ろ所に多くゝれるとなんされハ其の
哉ゝ其ゝる魚攻ひまゝくゝれゝ多多ゝきゝといふ言葉を記して
数珠も思ふ代ゝふ処想ゝと知る毎ゝ移伺の遥ふひまな
く魚を取ゝゝふつゝゝむゝゝるものゝ世も志きゝゝ面白や
といふ意なるも通ひてちつゝの五文字ハ網代哉の句ゝハ
ちつゝなるゝ花好句と知る句ゝ俳世ゝハ法ゝくゝもいふ句ゝ

攻数珠ゝふゝなゝゝゝる所ゝ秀逸ゝゝ句ゝ　此境（サカイ）祖翁の
現力ゝゝて弘学のゝの工夫ゝ句ゝ第一ゝ網代哉ハ延享貳
ゝ白山城の宇治近江の田上氷魚の網代各一處九月ゝ始り十
二月三十日ゝ至まゝこゝ至攻貢ゝと見えゝ今ハ網代木を
うつゝ九月九日よりゝゝむるゝゝゝゝゝ乃ゝ木を打ゝと
川の早瀬に其分の杭攻上賀く下狭く左右にゝゝ打て
其下ゝ狭き処ゝ網代哉の床攻ゝ毎夫攻たき川水のゝの
杭ゝ中ゝ入れゝゝゝまつゝゝゝの床ゝ養の上へゝ来る氷魚を
ゝゝゝゝゝ氷魚ハ和名抄ゝ鮠（ヨリウヲ）と云ふ白き小魚ゝ名所
宇治川田上川近江の湖ゝ野川ゝゝ歌にゝあり
俳白攻ゝ候ゝ

藤つゝぶかゝ　史邦

藤突ハふぢ咲の縁つゝたるゝめ今の下ぜ咲るどろの
巡風えかゝるゝいふ瓜に咲もえ（さゝゝゝと咲のおぢ
るゝ毎風情言外ゝ見へゝゝり

櫻桐の葉ゝ咲ゝ　野童

櫻桐の葉ゝ元ゝ風ゝ連れる咲のゝゝと咲ゝゝ
ゝぢかゝゝゝ毎実ゝみの彩ゝゝゝきの庭ゝ実景の姿情言
ゝかゝゝる理ゝ　櫻桐の二ゝ
住ゝゝゝゝ探ゝ趣ゝ

鵲の橋よりこゝかすゝゝ　伊賀　示蜂

俗語ゝ織女牽牛ゝ七夕ゝ一夜會ゝゝゝゝ鵲銀
河ゝ橋ゝゝりて織女ゝ渡ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれ立姫ゝゝ云伝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きゝ公向ゝゝの天の川ゝかけゝる鵲の橋ゝゝゝゝ
落ゝ咲ゝゝ丑乙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
集七夕の詩ゝ露應別涙珠空落ゝゝゝゝ豊ゝゝゝ
海向ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

浮ふくれ　麩賣ふくれなる　重敷うの邪　九兆

ふくれといふは魂かして餅賣ハ時節の掛合をみて味ふ
を麩賣がいづ地へうつるといふまで考き器まさり

ふくれ降る音や難波の生米るとこ　膳所　西好

ふくれ降る音とまて難波の生米るを託ちやうて降るさま
言外に学ぶべし生米る迄振ていることひぐくるふ麩賣と難波
の生米とふくれ降る音ふくれいるとよい所ふ味ふ
迄〜とこの字まてふくれとを初ふくれと心ひ為〜　雲英三回忌

ふつ雪や門ふ居さうな人ハ誰　其角

門ふ居さうな人ハ誰なるんとひぐくるふ風流の人とい
ふ雪ふ初雪ふて雪見ふ出ぬをいざや誘ふて見んいはる門
ふ居さうな人ハ誰なるふ雪と異ふて雪ふ言ふ誰の字魂ふ

初雪や稽古の帰り新屋のそく　難波　史邦

雪の降ふふ稽古ふ出んとする姿情言外ふ学ぶべし
いふ味ふ味ひ為りて魂ふ揺ふ為〜

雪やけの手伝ひてやる雪まろけ　羽紅

羽紅ハ元非う書ゑいとけちるさるの趣ひよ雪まろけ〜たるさるよ
こぐ〜るるよいと〜〜息いかけていとゑやる風情女の情ちる
毎〜いとやるゑとひぐくるゑ小蓋之切字のおさ句光木の所を
よ〜味ゆ興〜一句別蓋さくちるさハ切字の偏ゆ〜を云不光ハ

わさもるら元紅彩のこす雪ろけ　探丸

わさもるハ家賀自児と毎の稼ゆてるの字さ別義ゆ〜元歌
詞ゑ書蓋ゑかぎりていゆるゆ〜ゑ百葉集ゑ栄女ゆ鏡
伏の池ゑ入ゆ〜ゑ人丸ゆ〜ゆる歌ちぐ赤ゆ興〜若女を意
思ふさゆ通〜て羽ゆるる極て意の美ひとめゆ〜興〜句意
ハたゆや女のかぎるゆ〜て雪ろけ〜〜ゆるゆを解容せる

句ゆて賞ふ元彩の雪に自らゆ小あ〜べゆ〜ゆ興〜紅
白の対合ゆ雪ゆ〜ゆるゆ〜ゆ女の姿を
ゆ〜ゆて雪ゆ〜ゆけの意句姿情と備ゆ〜ゆ真渕翁云わゆもこの
さ伐濁る〜〜和賀伊毛の歌伊を約ゆる語ちれ〜ゑ〜ゆ

下京や雪つむ山の夜の司　元非

雪ゆ後雨秋角寂の情都ゆ〜〜ゆ豆ひ芋て下京ゆ〜ゆ金氏
言ゆの動詞ゆ興〜去年ゆ云ゆ句ゆ〜めゆ冠ゆ〜先
師を始いろして雪ゆて〜ゆ冠ゆ極ゆ元非ゆ〜ゆて〜ゆ
義着ゆ先師云非汝ゆ極ゆ冠と雪へ〜義ゆさゆ
ゆ〜ゆ家云非化ゆ〜ゆ智〜〜ゆ生云ゆゆ雪ゆ元

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なるしと川一筋や雪の原　同

[illegible]

[illegible]

信濃路をとるるかや雪ちるや稲屋の灯の刈穂　芭蕉

稲屋のすゝきは信濃の射山祭ホ芭の稲りて乃夜屋と言るもの
稲屋の神るゝ云祭八七月廿七日人撰集物よりとゝ陸奥のたけ
ホ八嶋のゝ心ホるゝ言のある所ゝ多へ信濃路のちやのすゝきて
雪ちりて下葉ちる色の那るる乃みりけ雪ホの言ひたち人のゝ多
多系の那ゝまして向言ゝ雪ちるヤ此雪のゝちる八稲屋作
る時刈穂ゝ芒の稲みやあるゝ舞とゝふ言ゝ実ホ信濃路
の枯那系ホ雪の反翻ゝ俗りまゝるゝ多銀ホ思れゝ

芋菴の留守をとゝを
義花八菴を訪ひ侍　菴乃雪　其角

徳て何ちのゝる向ち同ちと向と聖ゝ会ゝ解ち無ゝ句

のゝしりなかげんゝ為よ同ちハ係るゝの詞ちゝ
〳〵力の句ち同ちハ係るよ及ちゝ為ゝ面〳〵句ちゝハ
詞ちゝ為ゝんゝちの差違ゝ為ゝ面〳〵　嘉老ハ老衰と
同〳〵年　老ハ〳〵ゝ為ゝ〳〵ゝ為ゝ〳〵ゝ為ゝ

夏草や壮士(ツワモノ)健(たけ)のなごりかな　芭蕉翁

なつくさ健と以ふ字を魂ハ是なり

乙州(オツシウ)へ行(ゆく)て行(ゆく)や雪(ゆき)の山(やま)　去来

なごさ公引けて雪を踏る迹れ引人のさま尺ろ

吟一雪の所をよく知て動くなひつけ行くな

深なるを雪といふ情ハ知れなりて雨蓑ハ猥

州豊島郡(テシマこほり)より織出す蓑をいふ

青丘追悼

乳のみ子を世に残す　尚白

乳のみ子を世に残す所元禄

青丘(セイキウ)追悼(ツイタウ)

乳のみ子を世に残す所元禄

方寸(ほうすん)なる紙悼(ツイタウ)する句なり

乳のみ子を世に残す所元禄

なる師(シ)の追悼(ツイタウ)なれ共ハ知る人なく

なる師の追悼(ツイタウ)なれ共ハ知る人なく

なる師の追悼(ツイタウ)なれ共ハ知る人なく

なる師

爲に赤子代の心の味ひいひくんと腸をさぐるとは
祖翁の所ゝの句ひ〳〵といつる句ちをいよ〳〵味ふ爲に心の味
と機婚成ち又空の字もかゝと別すると思ふ句〳〵又此句を詩
の互照双關を以て評する人なりさを此句自然の場をて
詩の格ふちゝひたる所ゝ空也上人ハ延喜帝手ハ二の皇子ゝ

鉢たゝき 惟ハ新子 似ぬものゝ 乙州

此句鉢たゝきの所ゝを主として又る人世ゝ云る句作をて
鉢ゝきの色黒ゝ動くつけ有ちを思ひやる愁て句を解
ゝよのよ〳〵其情を探り求むる者一之新を似ぬ所ゝ句
ゝ出よ和樂ゝ所ゝ句の又ゝ色ゝ

一月ハ家々茶を飲ゝを 丈艸

此句一月ハ家ゝ茶を飲ゝをやゝんと云ゝ所ゝを主として
主客一致の意色唐寶の風情言外に有ゝ所ゝ
飲ゝをの閑寂を賞して淡白と一月の稽茶(りやうちや)に借し
人ゝを以て戯きる所ゝ流ハ祖翁四哲の一人なる爲ゝ再(ナヽビ)ハ
新を求ゝて腹を滿ゝ茶を求ゝ(シバ〳〵)屢ゝ
ゝ心ゝ風流ゝ句作ゝ爲ゝ茶道ゝ
人の及ぶ所ゝ也好ゝ所ゝ
一数ゝ古人意色同日の論ゝ
ゝ清貧の情更ゝ一毫を入ゝ

[illegible]一宵ふかう不[illegible]ものそいの[illegible]
敲の閑寂殊勝の風情[illegible]
者ずして毎朝茶ばを[illegible]
[illegible]ものを一月の茶を借しの[illegible]
[illegible]行てすんとのそいて[illegible]
[illegible]月といふよ句情すべたる又鉢敲の事月十三日空也忌よ
て四条坊門堀川の東をふより行ひとすしぬ四十八次暁てふ
つめる成暁の泊[illegible]ふも又浴みの三昧所を寒中借養
一修りまるたり乙州丈そよう作る不[illegible]

住吉奉納

夜神楽や鼻息白し面の内　其角

摂州住吉明神奉納の句ハ法楽の句ハ總てさうしと常
らん一言下よりて下してなるものなり出立をなるべく作る事をする事
ひとつ句次神楽の服装ばよしして古物の黒き面の内より寒
波の鼻息白く出る新しき面みへ[illegible]るるもの[illegible]
[illegible]ものよりなる成わざしして二座か
切[illegible]ハ神祇の親句句[illegible]ものでいふめる俳志祖翁の俳意示傳の
[illegible]誤て神祇釈教名所の句ハ二座かわてる宜しいふ侍[illegible]
切[illegible]ハ穿鑿未熟の業よ弁と費して益なしその熟伝
[illegible]て一言ハ渝[illegible]句ハ白さとせハ服装の所分ハ[illegible]

代を弱し白しとして現在目前かしてる稿といふべし
是亦自然の事業にして別に求むるにはよろしく時間
にして年納の句ふさめのうちと指折て晋子うるつ海棠
なる事一今時蘆雪の論をてきたり

節季俳諧　又の年忘れる　陸　伊賀　順琢

節季俳諧といふにせくせるといふ言ひ合て年の孤独
いとくさくせ俳諧又節季ゆゑ来てせちせちて今年の命を
も見とめて別れ又命をるも思ひ絶えんと歌息の句も
句の表節季の古俳諧老まいるを多又みふ命を好む俗
言葉をかしと作りるとは一のそむかるるも何ちの

と言ふ言葉

かくやうにやうにちいせ〳〵さて　拂　伊賀　祐甫

少てうまくの句をていやーさいふ言をとあてはめ
ひとちとういやーさまはあられは什ひくしは中人以上
の家とは少やうにまを拂の実情を見聞する句にて十月
十三日の句と宮原一家の形とはるを味ひ合一

乙刑ら彩宅ふて
人年かをこのくせて　年忘　芭蕉
光億遠のお情をしてを西園高調といふ趣一世の人は

家を求めて新宅わたりのと移りて楽しむ事ハ引
かつて隠居の資にまとまる安にて人の新宅に招きまして
志ありと謂聞されし作之進ハ亦父のめくつるを
とるのめくまるるのなりと考し欲を作られしまま異
合てをみるのよき事ハ法師求ん父の分まて当惑
かるまじきや先所方の実情言外にあらの向之ハ
て言ふ所一なる事乙例の新宅に妻伝行てと有言葉此之

弱法師家門もるせ俳の札　其角

公向五元集ハ市隅に新たなる市中の片住居といふ義又
富の誤字ともいへり弱法師といふハ謡曲外百番のうちよ

りて出たる名目より異出たるものなり法師に自他の差分なし
よく言ふとゝめて味ふ所一札とハ先食頭より江戸町々
の仕切札といふを張て物貰ひの事ハ此やうに科なりて仕切
やう札紙之俳の札とハ月並の仕切札ハもく何の事月並仕切
と書之又隙時の仕成法ハ亦ハ四角なる小紙に仕切と計を
を押さる所張之案当俳貰ひの仕切ハ只作成押さる計の四
角なる小紙成張て切之を俳の札といふ之弱法師の家門
ハ四ツ也俳の札ハ一ツ也事にて四の札ハ底言葉
にて作らるもの字面の札なるべき幻術之古説
ハ弱法師を青目法師の乞食にて家門ハ四ツ也俳の札張
てなるべ説なれとハ俳意なるべ事合ハ此やうの

言葉も居さらぬと云ふ舞――又篠曲の弱法師といふは河内の
玉高安の長者門前通俗といふ人の子に俊徳丸といふ盲目
にたりて乞食せり――此長者の篠されとその旨月乞食を乞
ては付句俳諧をせり――その文句に貴賤の人を付けるのまろひ
よひ彼此の思ひまとはるしく寒も詠のよろ四らしいふ
此晋子大酒の才のうつ〳〵雨ての一杯酒蕎麦くる夏――
隙まひの人をとくて出けず形と思遣陳乗の祇園といふ句を
もたりて思ひ合せ舞――世間の篠世に発はは思ひ出はまつと
よりふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵

[illegible]翁の夢祖父[illegible]

うす墨の一筆は仁のうとしの竹陰　去来

うす墨は只一筆の境ぞ大晦日と元日とをかねて去年と今年
[illegible]の[illegible]の[illegible]
て句作[illegible]仁のうとしの無視と[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]門松[illegible]
[illegible]
[illegible]

俳句一筆は仁のうとしの混雑するを書かれて[illegible]

[illegible]れて[illegible]や伊勢[illegible]　同

立春のいまるものは伊勢熊野産物多し[illegible]
[illegible]の伊勢海老[illegible]田作[illegible]蛇熊野産鰹[illegible]
[illegible]日本の神祇[illegible]
[illegible]伊勢熊野[illegible]
[illegible]
[illegible]

大[illegible]やまのとうれさる人こころ　羽紅

此句は紅う大晦日の述懐なり人心といふは我機を見かぎりしる元人をさすなり味ひ深し一句のもとれるとかとかとめていふる句しかも句意は元日より大三十日までの知恵しるるるふいろなれは此やうなあれこれといそがしく心はせまふ人心の平生をかるる事を我ふ句意なる故なり我身は才も心も労せるなる句しかも心はなるしる事しかも此やうなぎはるるのきはを驅るしかるに人心は己れ心の乱れ自由なるあれは梅は春なるべし

心やとしふ意之

やりかれてみやさむし　万年の雪　其角

此句は白雪の白きのめるを晋子が所作なる句なり又その西鶴の活達の氣性見て やりかれてこそ俗諧はやりかるるなどいふなりて活付の意なれこれを直して補ふといふこれされてそのやりかるといふるなるやりかるてしまるなるなる家はさまふりかれやりかれはやるこれ至るといふるを五文字なる やりふるるこれ白意はりふる大晦日にて天一は酒屋奥屋奥屋茶屋茶彩屋と掛乞のつとひ来きるを夫くまかりと掛ひきり掛又なの義理は義理と金銭を呉を乞てしてして又なる一銭銭なるさ小菜ナ茶銭をすはて自得の句なし都句一又やといつるふふ味を考句一一言下の乗句なる句一 評注

此句は白雪の白きのめるを晋子が所作なる句なり又その西鶴の活達の氣性見て やりかれてこそ俗諧はやりかるるなどいふなりて活付の意なれこれを直して補ふといふこれされてそのやりかるといふるなるやりかるてしまるなる家はさまふりかれやりかれはやるこれ至るといふるを五文字なる やりふるるこれ白意はりふる大晦日にて天一は酒屋奥屋奥屋茶屋茶彩屋と掛乞のつとひ来きるを夫くまかりと掛ひきり掛又なの義理は義理と金銭を呉を乞てしてして又なる一銭銭なるさ小菜ナ茶銭をすはて自得の句なし都句一又やといつるふふ味を考句一一言下の乗句なる句一 評注

作句して言外餘意なるは蛙の業之

い祢ぐさ人ゐいたれつ亭の芳　路通

付句俗言以て一句の姿をなす事ハ人の他へ引をもとゝ
いぬるハいなぬるゝやぐいなぬるゝやくい祢ぐ言ふ吉鄙言ふ
いぬるハいなぬるゝいなぬるハいあゝ祢いけゝ皆行の字
のつゝひ方ゝて行をいゝ例すハ業業業ゝ
古語之句言ハりゝや句ゝて助けしゝ人ゐいれるハ已ゝ人
の用ゐたゝめ祢ゐ大略のやゝ法多いづゝ引ゝ邪ゝ
ゝるゝゝ義ゝて已要用ゝる成言ゝて人の
ゝ毋ゝ字ゝる言ゐゝ味ゐ句ゝ又或書ゝ位つ為の
ゐや亟巨煙ゝ句の同ゝよい祢ゝ人ゐいれても狂喰

あゝ孫の孫ゝ家ゝ意ゝ意ゝ付同ゝ
の姿ゝ為て亭の芳ゝ基ゝる梅向ゝ味ゐ句ゝ　付同書茅の屋大煙の條ゐ
ゝ為ハゝ付句の引
ゝ事ゐ出ゝ

亭ゐれ鶴をゝ毋の裳ゝ　杉風

世句言ゐ浪ゝ探ゝて解ゝ和ゝ一句の上文字ゐつゝ
解ゝ為ゝ引ゝ幾ゐぐゝ幾ゐ條ゝいゝるゐゐゝて鯉
座藤左ゐ五ゐ所月つゝめゝるゝ毛袴ゝ人ゝハ彼れ袴ゝ為ゝて
ひぐゝの毛條ゐゝゝゝゝゝ毛ゐれ袴ゝ為ゝて亭
の芳ゐいゝかゝゝゐ乞ゝ為ゐ為ゝ姿ゝ幾節ゐぐ
ゝ為ゝ為ゐ古袴ゝ為ゝ為ゝ為

に袴を穿くと男女共に穿く形容の言葉
と云ふ事一又袴一ツ二ツといふ如く一條(スジ)二條といふ事用つ
まる上ぬぐ脱ぐ云と等の未だ古袴の掛(カヤ)幾重ぎ
とも生ぬぎといふ言ちりとなる八文字の上乃解ち
て姿情ち一

帝國圖書館藏

春暮はくのし 巻之二終